



新年のスタート

丑のようにしっかり地道に!

須木中通信



リモート集会!

一月六日(水)、冬休み明けの集会をリモートで開催しました。

新年という事で、代表生徒(一年・四位さん、二年・鎌田さん、三年・水谷くん)三名が年頭所感を発表しました。

「勉強を頑張りたい」「部活動を頑張りたい」「コミュニケーション能力を高めたい」「リーダーシップを発揮したい」「何事も最後まで諦めない」「受験を乗り切りたい」「自分に厳しくありたい」「みんなと協力したい」



「笑顔で卒業したい」等、力強い発表でした。代表生徒の発表の後、全校生徒も一言ずつでしたが目標を述べました。年頭忘れてた目標を一年間忘れることなく、目標達成に向けた行動が重要です。自分の目標達成のための行動変容を期待いたします。

宮日新聞掲載

『須木独自の文化を継承』
三年 今重実世

須木地区は、もともと須木村という小さな村でした。そのため須木独自の文化や祭り、行事があり、毎年八月に開かれる須木納涼花火大会では、何千発ものきれいな花火が見られます。

私は、須木の文化の一つである「いちよう太鼓」を継承しています。須木をはじめ小林市で開かれる様々な行事で、須木小・中生が太鼓を演奏しているのです。コロナウイルスの影響で今年あまり活動できていないのですが、六人という少ない人数の中で頑張っています。他にも、剣舞など須木独自の文化が残っています。

『自ら誇れる人に』
一年 四位朋華

学校の近くの橋では、ほぼ毎日鷹が飛んでいます。いつもは朝と夕方しか見られないのですが、時々学校の窓からも見られます。中学校に入ってから慣れない中、唯一の助けは鷹でした。大空を悠々と飛んでいる姿を見ていると、心が落ちついていくように感じました。私は橋の上から鷹が山の奥に消えるまで見ているのがとても好きです。学校で嫌なことがあってへこんでいるときは、必ず見て帰ります。いつも鷹のように自由に飛び回れたらいいなと思います。それは無理なことだと分かっているのに、私は人間として自分を誇れるようになっていきたいです。

私は去年、生徒会役員になりました。役員の間でも全校生活保健委員長という大きな仕事をやらせていただきました。先輩方が全校生徒の前に立って堂々と意見を言いました。でも、自分がその場に立つと、本当に自分にやり遂げられるのかとたくさん不安が襲ってきました。

今、生徒会役員となり約三ヶ月が過ぎました。まだまだ全校生活保健委員長という仕事に慣れず、周りの人に頼ってしまっています。そして、この三ヶ月の間でいくつもの大失敗をし、またそれ以上の達成感を味わうことができている。

憧れの先輩方に近づきたいにも、失敗を恐れず、失敗するほど行動して頑張りたいです。こうして自分の大きな目標をもつことができたのも、全校生活保健委員長になったからだと思っています。これから、もっと成長して「自立」「自律」を目指していきたいと思っています。



池江璃花子選手

悔しい思いを前に進む力に

話の途中、彼女は「なんだろ」「なんだろ」「なんだろ」と繰り返して自分自身に問いかけます。質問を受け、頭の中に浮かんだことをできるだけ正確に伝えようと、自分だけの表現を探しているためだと思えます。泣いて、笑って、苦しんできたその時に感じた思いや考えを、自分の言葉で私たちに話してくれました。

白血病と診断されてから、今年の二月で二年。さらめいていたかつての自分にはもう戻ることはいらない。そう頭で理解

命があることに意味がある

「正直、退院してからの方がきつい時期もあったりしたので、うーん、まあ、ちょうど一年つていう事もあるんですけど、なんだろう、ほんとにごく順調にここまで来ているし、なんだろう、こういう環境、コロナになっちゃって、全然自由に身動きが取れない状況の中でも泳ぐことができて、それは、すごく幸せを感じているというか、今までだったらそういうのをいちいち考えることもなかったと思います。なんか気持ち的な強さっていうのは、あんまり病気になる前とは変わらないとは思いますが、なんだろう、自分の中では、人

葛藤

池江さんが再びプールに戻ることができたのは、二〇二〇年三月十七日。退院しておよそ三ヶ月。免疫力などに一定の回復が見られるという医師の判断のもと、顔を水につけないという条件でした。それでも泳いでいる間、池江さんの笑顔が消える

ことにはありませんでした。それから間もなくチームの練習に合流。病み上がりとして、泳ぐ距離は他の選手の半分を設定されるなど別メニューが組まれました。

「泳ぐことを楽しみたい」と話していた池江さん。しかし、プールでは裏腹な行動を見せません。チームメイトと張り合うよう泳ぎ始めたのです。

「(病気になる前は)練習でも、試合でも、敵がない状態で、他の選手と一緒に泳いでいても、他の選手よりも飛び出て、一人で独泳状態っていう感じの練習が多かった。今は逆にすごく置いていかれる立場になって、自分がみんなを追いかける立場になって、なんだろう、みんなよりも飛びぬけていた時と、逆に今はダントツに遅れている自分のギャップっていうのが、なんだろう、受け入れられなかったというか、1年以上休んでいた

2月の主な行事!

- 2日(火) 生徒集会
- 4日(木) 県立高等学校推薦入試
- 9日(火) 全校集会
- 10日(水) 立志式
- 12日(金) 県立高等学校推薦内定状況発表
- 15日(月) 教育相談
- 17日(水) 学年末テスト
- 18日(木) 学年末テスト
- 19日(金) 学年末テスト
- 22日(月) ドリームジャンボ学園
- 26日(金) 参観日、読み聞かせ(1・2年)

※新型コロナウイルス、インフルエンザ対策を!

から仕方ないと思いがちにも、そういう、他の人に、どんなに頑張っても勝てない悔しさという無力さというか、そういうのがすごくしんどくって、そういう状況になっていました」

ほんの一年ほど前まで、池江さんは東京オリンピックのエースとして期待されていました。その頃の自分とは違うという事は、もちろん頭ではわかっていた。入院生活で落ちた体重は十キロ以上。筋力もすっかり無くなりました。それでも仲間と張り合う事を止められませんでした。

当時の取材中、池江さんは練習途中で泳ぐのを中断。「気持ち悪い」ともらしながらプールサイドで横になってしまったり追いつくこともありませんでした。

一月二十三日、池江選手は、国内トップクラスの選手が顔をそろえる大会で、白血病から競技に復帰して初めて100メートル自由形に出場し四位に入りました。タイムは55秒35で、東京オリンピックの代表選考会となる四月の日本選手権に出場するために必要な参加標準記録を突破しました。

「MRTIラジオ 私たちの作文！」

「大好きな時間」
 二年 鎌田 美月
 私が家族で大事にして
 いるのは、家族で兄や私
 の幼いときの昔話などを
 する時間です。

何故かという、私た
 ちの小さい頃の話をし
 ている時の母や父の顔が大
 好きだからです。普段と
 は少し違う優しくとても
 温かい笑顔でゆっくり話
 してくれました。私が赤ちゃ
 んや小さい頃よくお風呂
 で溺れていたへんだった
 ことや、兄（長男）がと
 ても高額な釣りの釣竿を
 折ってしまったことなど
 をよく話してくれました。
 昔のことなのに何度聞い
 ても笑顔に溢れていてと
 ても幸せを感じる時間だ
 す。

最近、話の中心にする
 のは長野県にいる兄（長
 男）のことです。その兄
 とは十三歳も歳が離れて
 いますが、私が産まれた
 時は兄は中一でした。私
 の印象は意地悪でよく鼻
 をいじられてた記憶があ
 ります。小さい頃から鼻
 の骨が柔らかかったらしく、
 兄からよく押しつぶ
 されて遊ばれていました。
 その頃の私は痛くはない
 のですが、そうされるの
 が大嫌いでした。でも、
 今思うとそういうやりと
 りがとても大切だったん
 だなと遠く離れてなかなか
 かえれない今、強く思い
 ます。

今年のコロナで仕事が
 できないとき、兄は帰省
 すると言わず私たち家族
 のことを考えて長野県に
 残ることを選びました。
 兄が帰省するためには、
 どうしても東京や福岡を
 経由することになり、コ
 ロナウイルスをもって帰
 るわけにはいかないと気
 遣ってくれました。でも
 早く会いたいなあと思っ
 ています。

他にも昔の話をするだ
 けでなく、アルバムを見
 たり、保育園で頂いた記
 録本などを見たりするこ
 ともあります。この時間
 がとても大好きで、大切
 に継続していきたいと思っ
 ています。

「家族」
 三年 花傘禮 美紅
 「家族」って何だろう。
 私にとって、みなさん
 にとつて家族とはどんな
 存在ですか。

私は、中学一年生の九
 月から親元を離れて祖父
 母と暮らしはじめてもう
 二年が経ちました。ここ
 らの生活には、随分慣れ
 て毎日楽しい日々を送っ
 ています。毎日美味しい
 ご飯を食べ、他愛のない
 会話をするのが私にとつ
 て大切な時間です。

祖父は、几帳面で良い
 意味で真面目で、口数は
 少ない方ですが、沈黙で
 も落ち着くようなそんな
 人です。反面、お酒を飲
 み過ぎると人が変わった
 ように元気にしゃべりま
 す。そんな所も祖父の魅
 力です。

性格が真逆な祖母は、
 明るく楽観的なお調子者
 で誰とでも話すことがで
 きるそんな人です。たま
 に、変なステップをして
 笑わせてくれる面白い一
 面もあります。そんな祖

父母に出会えて良かった
 と本当に思います。
 両親の代わりに大切に
 育ててくれ、参観日や奉
 仕作業などの学校行事に
 も参加してくれるのでい
 つもありがたいと感謝し
 ています。私にとって祖
 父母は、第二の親であり
 とても頼りにしている存
 在です。この二人がいた
 から今の私があります。
 感謝の気持ちを忘れず、
 いつか祖父母に恩返しが
 出来るような立派な大人
 になります。

「小さな社会」
 一年 假屋 冴爾
 社会では役割があり、
 僕が考える「小さな社会」
 とは家族だと思っています。
 例えば、僕の家は時々
 パーベキューをします。
 準備、片付けの時は一人
 一人役割があります。僕
 と父は外の椅子やテーブ
 ル、炭の準備をします。
 母と姉は家の中で食材の
 準備をします。片付けで
 は、母が家の中で洗いの
 物をし、僕と父と姉で物を
 運んだり、外の片付けを
 します。役割を決めて行
 動すると早く終わる気が
 するし、みんなで動く事
 で気持ちよくなります。

普段両親が留守の時は
 誘惑に負けて、何もしな
 い事があります。色々な
 事をそのまましておく
 と、両親が仕事から帰っ
 てきた時に僕たちでして
 おけばよかったことを両
 親がします。勿論、僕た
 ちは叱られます。その日
 の夕食をはじめ全てが遅
 くなってしまう、時間が
 アツという間に過ぎてし
 まいます。だから、小さ
 な社会の家族でも一人一
 人に役割があり、それを
 実践しないと家族の誰か
 が困ってしまうんです。こ
 れは本当の社会でも同じ
 だと思っています。

人にはそれぞれ役割が
 あり、自分の役目や役割
 を果たさなければ誰かが
 困ったり、無駄な事をし
 なければならなくなると
 思います。僕はまだ本
 当の社会での役割は、そ
 んなに経験していません
 が、家族という小さな社
 会での役割を果たして、
 いつか本当の社会での役
 割をしつかり果たせる人
 になりたいです。
 その事を考えて今でき
 る僕の小さな社会である
 家族を大切にします。
 生徒たちの作品が、新聞
 やラジオでたくさん紹介
 されるようになりました。
 とても嬉しく思います。

年賀状コンクール

十二月末に、生徒会主
 催の年賀状コンクールを
 実施いたしました。

